

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会第8回シンポジウムの報告書  
＜日本原子力学会 2008 春の年会企画セッション＞  
「世代を超えて皆で語ろうー原子力が元気になるには我々に何ができるか」

日時：平成20年3月27日（木）13:00～14:30

場所：大阪大学吹田キャンパス B会場（E1棟217号室）

主催：（社）日本原子力学会 シニアネットワーク連絡会（SNW）

共催：（社）日本原子力学会原子力青年ネットワーク連絡会（YGN）、同学生連絡会  
同関西支部、関西原子力懇談会

参加者総数：約100名

（備考 報告書本文中では敬称略とさせていただきます。）

＜プログラム＞

座長 柳澤 務（日本原子力研究開発機構、SNW）

基調講演 13:00～13:30 「魅力ある原子力の復活に向けて」前田 肇（前原子力委員）

パネリストとスピーチ

- ・ 前田 肇（前原子力委員、SNW）
- ・ 宮崎 慶次（大阪大学名誉教授、SNW）
- ・ 政野 澄子（福井県女性エネの会会長）
- ・ 来馬 克美（若狭湾エネルギー研究センター常務理事）
- ・ 田川 明広（日本原子力研究開発機構、YGN 前会長）
- ・ 鈴木 将（東海大学大学院、学生連絡会運営委員）



<講演資料> (項目をクリックすると資料が参照できます)

1. 「魅力ある原子力の復活に向けて」 前田肇
2. 「大学での活力ある原子力研究教育を」 宮崎慶次
3. 「原子力立地の立場から」 政野澄子
4. 「エネルギー研究開発拠点化計画について」 来馬克美
5. 「消費地で生まれ育ち、生産地で研究をして、感じること」 田川明弘
6. 「学生からの要望」 鈴木将

<議事要約>

(座長挨拶) 現在、世界は原子カルネッサンス、我が国も原子力立国計画と追い風であるが、我が国の内部には事業者の不正、隠蔽問題や発電所の稼働率が低いこと、洞爺湖サミットに向けて国のトップが原子力の役割を積極的に言わないなどなどあって、若い人達に人気がない。しかし、一方では今年には六ヶ所再処理施設が操業を開始し、もんじゅも運転再開間近い。今日は原子力一途に来た人、生まれた時から原子力が大きな存在だった人が世代を超えて集まって、原子力が元気になるには我々に何が出来るかを議論したい。まず、前田様から基調講演をお願いします。

(前田肇) 世界各国は今やエネルギー安定供給と地球温暖化対策を背景に原子カルネッサンスであるが、我が国は運転稼働率の低迷、プルサーマルや高レベル放射性廃棄物地層処分選定などの停滞、電力会社の不正隠蔽問題に中越沖地震が追い討ちをかけ世界から取り残されつつある。原子力には光と影があるが、現在の社会の認識は影>光であり、これを光>影にするには、①高度の安全性の確保、②規制の合理化、③透明性とコンプライアンスの徹底、④原子力の正しい理解の促進、⑤地域の持続的発展への貢献、⑥人材育成と研究開発といった課題に産・官・学と地域社会がそれぞれ努力し協力し取り組まなければならない。本日は④、⑤、⑥につき議論したい。④は国が先頭に立って全員参加で学校教育、情報公開、産消対話、SNW活動などを推進すること、⑤は国・自治体・事業者・学研の協働で、原子力施設は迷惑施設でなく資産であり、地域で自主的ビジョンを作成して電源立地三法交付金を効果的に活用こと、⑥は国・自治体・学研・事業者が協働で原子力を魅力ある職場にし、大学や研究機関の連携により教育を実施し、研究開発を推進して若者に夢を与えるよう努力することが肝要である。

(宮崎慶次) 大学は原点に戻り学部での基礎の重視と大学院での専門性を強化して原子力の核は堅持し広く人材を集める必要がある。教官は社会との接点を重視し広報にも努めるべきである。企業への要望は将来的な国際的な視点から博士の採用、委託研究の拡大を要望したい。関西圏では京阪神・中京・福井の産官学連携大学の拠点は敦賀市に、更に原子炉と近くに大型ホットラボの設置を希望したい。なお、原子力を政治に利用するなかれ、

また関電原子力事業本部は優秀な人材確保の為に大阪へ戻るべきだ。



（政野澄子）福井県エネの会は平成 9 年にエネルギー勉強会として発足、現在会員は約 400 名で全国に先駆けて結成した。近年は地球温暖化とエネルギー問題が追風となって活動がやり易くなった。原子力の理解啓発活動のため紙芝居を制作して県下延べ約 300 回上演活動。原子力を本音で語れる社会を望むが、国や政治家の姿勢、国民の意識が問題。原子力を本音で語れる社会、推進することを堂々と言える社会の到来を望む。文科省になって教育の現場での活動に入りやすくなると期待している。活動することに誇りを持ちたいが中傷された、しかし挫けない。原子力に携わる人達への願いは安全文化の定着、トラブルの軽減であり、技術者が自信を持って堂々と話をして欲しい。安倍前総理も福田現総理も施政方針演説で何故原子力の事に触れないのか大変残念だと思う。

（来馬克美）福井県のエネルギー研究開発拠点化計画について紹介したい。（詳細は配布資料を参照）福井県には多くの原子力関連施設があり、原子力を中心としたエネルギーの総合的研究開発拠点地域とすることとし、推進組織を平成 17 年 7 月に発足した。これまでの主な取り組みは、1. 安全安心の確保として（1）高経年化研究体制推進、（2）地域安全医療システム整備、（3）陽子線がん治療など癌研究施設整備、2. 研究開発機能強化として（1）高速増殖炉研究開発センター、（2）原子炉廃止措置研究開発センター、（3）若狭湾エネルギー研究センターの新たな役割、（4）関西・中京圏を含む大学や研究機関との連携促進、3. 人材育成交流として、（1）県内企業の技術研修、（2）県内大学における原子力・エネルギー教育体制強化、（3）小中高の原子力・エネルギー教育充実、（4）国際原子力情報・研修センター、（5）海外研修生受け入れ促進。（6）国際会議などの誘致、4. 産業の創出・育成として、（1）産学官連携による技術移転体制構築、（2）原子力発電

所を活用した新産業創出。今後の方針として①原子力安全研修施設、②広域連携大学拠点形成、③次世代エネルギー研究開発プロジェクト、④関西光科学研究所レーザー利用技術推進室（仮称）、⑤新エネルギー研究センター（仮称）に取り組むことにしている。

（田川明弘）若手は元気がないのか？肉体的には若いので元気はあり、失敗を恐れずチャレンジしたい（本音）。精神的には自分の仕事には誇りを持ってはいるが、世間からは避難される時ばかり注目される。遣り甲斐のある仕事をしたいし、たまには誉められたい（本音）。元気が出る時としては福井大学に国際原子力工学研究所設立のニュースやふげん・常陽・JRR3が米国原子力学会ランドマーク賞受賞のニュース。しかしなぜ国内でちゃんと誉められないのか？元気がなくなる時は、整備新幹線敦賀まで認可に「原子力カード」が利用された時、これは学生にも悪影響。消費地出身者として地元の元気出す活動として例えば福井県原子力開発協同組合設立や汎用小型原子炉「ほやって1号」開発に挑戦とかのアイデア。生産地居住者としては消費地とはお互いにWIN-WINの関係なのに気付いてない、消費地にはもっとエネルギーに関心持って欲しい。若者は数年間に比べれば元気になってきた、誉められればもっと元気になる、逆に若手も人任せにせず恐れずにチャレンジすべきだ。

（鈴木将）今の時代は選択肢が多様であり、いくらでも選べるし、周囲は悪いイメージだからとりあえず原子力は勉強や就職の選択肢から外され、人材不足、理解者いない、やる気失う、と悪循環である。従って要望として、原子力を肯定する人と接する機会を多く作って就職の選択肢に残してもらい、自信を持たせて、やる意義と動機付けをつけていただくよう、お願いしたい。

（座長）①若い人が元気になるには、②地域の産業や大学が元気になるには、③地域住民が元気になるには、という3つの切り口からパネリストの皆さんに一言ずつお願いします。

（宮崎）①の若い人が元気になるには、シニアが原子力がこれから我が国で非常に重要であるということを書いて頂く、またマスコミにもお願いしたい、次に文科省に学習指導要領にエネルギー、放射線、原子力を入れていただくことである。（注：改訂版にはエネルギー、放射線は入っている）

（政野）若い二人の意見は非常に有益で、やはり人は誉めて育てるとするのは同感である。

（来馬）田川さんから立地地域からプロジェクトを立ち上げると言われたが、今や何でもありなので大学でも企業でも仕掛け人になれます。エネルギー研究開発拠点化計画は3年経ってようやく基礎が出来たのでその上にまだ3~4年かかるでしょうが若い人から何でも

言ってほしい。福井は原子力立ち上げてから既に30年経ったがようやくこういうプロジェクトが立ち上げられるようになった。これからは夢も持っていきたいのでどのような提案でも否定しません。



(田川) 今学生の皆さんへ、就職してやりがいのありすぎるぐらいの仕事があるので、目だけでなく、原子力は世の中の役に立ち、将来もあるという期待と希望をもって欲しい。

(鈴木) 分かりました、期待して努力します。

(前田) 洞爺湖サミットで議長を務める総理大臣から地球温暖化の為に原子力推進だ、と言って欲しい。

(座長) 元気になるには誉めてあげる、認めてあげるということは人材育成に大事なことであり、また今の我が国社会全般に言えることだと思います。また地域の中で新しい動きが起きた時は新しい技術開発にチャレンジする機会でもあります。時間が足りなくてフロアの皆様との対話が出来ませんでした、本日のパネリストの方々の講演や意見を皆様の仕事の糧として生かして頂いて、我が国のエネルギー確保の為に頑張っていただくヒントを得ていただけたら幸いです。本日はご参加いただき有難うございました。